

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当	
A-151	A-540	23-071	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Disentangling the contributions of alcohol use disorder and alcohol-related liver disease towards dementia: A population-based cohort study アルコール使用障害とアルコール関連肝疾患の認知症への寄与の解明: 地域一般住民を対象としたコホート研究			
執筆者			
Zhao S, Widman L, Hagström H, Shang Y.			
掲載誌			
Addiction. 2024 Apr;119(4):706-716. doi: 10.1111/add.16395.			
キーワード			PMID
アルコール使用障害、アルコール関連認知症、アルコール関連肝疾患			38044804
要 旨			
<p><b>目的:</b> アルコール使用障害 (AUD) 単独とそれに伴うアルコール関連肝疾患 (ALD) との関連性を独立して測定することにより、アルコールとそれに伴う肝疾患が認知症発症に与える影響を解明する。</p> <p><b>方法:</b> 1987 年から 2020 年までのスウェーデンにおける National Patient Register およびその他の登録を利用し、慢性肝疾患の管理コードを含む患者を登録したコホート研究「スウェーデンにおける肝疾患の疫学の解明 (DELIVER)」のデータを使用した。AUD、ALD、および認知症の診断は国際疾病分類第 9 版(ICD-9)および第 10 版(ICD-10)コードを使用した。AUD 単独および ALD と認知症発症との関連性は、潜在的な交絡因子を調整した Cox 回帰モデルを使用して推定した。また、認知症以外の死亡を競合リスクとし、3 群の累積罹患率も検討した。</p> <p><b>結果:</b> AUD 単独は 128,884 人、ALD は 17,754 人、対照群は 2,479,049 人であった。中央値 8.9 年の追跡期間中、AUD 群で 13,395 人(10.4%)、ALD 群 2,187 人(12.3%)、対象群 138,925 人(5.6%)の認知症症例が特定された。対照群と比較し、AUD 単独[調整ハザード比(aHR)=4.6、95%信頼区間(CI)=4.5–4.6]および ALD (aHR=8.6、95%CI=8.3–9.0) では認知症発症率が高かった。AUD 単独の場合も、血管性認知症(aHR=2.3、95%CI=2.2–2.5)およびアルツハイマー病(aHR=1.4、95%CI=1.3–1.4)の発症率の上昇と関連していたが、ALD は血管性認知症のみと関連していた(aHR=2.7、95%CI=2.3–3.2)。認知症診断時の年齢中央値は、AUD 単独の場合 67 歳[四分位範囲(IQR)=56–76]、ALD の場合 63 歳(IQR=56–71)であったのに対し、対照群では 85 歳(IQR=79–89)であった。</p> <p><b>結論:</b> スウェーデンにおける AUD 患者は、AUD のない患者と比較して、認知症の発症率増加および診断年齢が若いことが示唆された。ALD を併発すると、認知症の診断率を高め、平均年齢をさらに低下させると考えられる。</p>			